（明治四十一年十二月三十日第三種郵便物認可）　明治四十五年一月十日（水曜日）　第八百五十七號　（一）

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

明治四十五年紀元二千五百七十二年
本紙定價 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金三十錢▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金一圓八十錢▲郵稅一ヶ月十五錢
月曜日及び祭日の翌日は休日（日刊）
廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行一回金十錢▲雜報欄特別廣告五號活字七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人 高木久馬
印刷人 松久辨一郎
發行所 京城西小門通 京城新報社 電話大三番 振替口座京城四五六番
仁川支局 仁川宮町三丁目 電話二一一番
東京支局 東京市京橋區南佐柄木町七番地

●我輩の新年（二）

溫突住人

キツな々爆禮者があるらしい、下駄の音と靴の音が吾が輩の溫突の前を往來する、然うして來る人も來る人もフウ々々と牡牛がやるやうな荒い鼻息をしながら通つて居る、溫突の中こそホカ〳〵と春の陽氣だが戸外は隨分寒さが激しいのだ、詰らない、こんな寒むい時に何も態々くも無い羽織を着込んで御芽出度と云ふ厄介なもので掘なども提げて來でもない名刺を配つて歩かなくとも、チツト昼にでも潜り込むで御馳走でも喰つて居ればよいに、世間の義理が濟まん――名刺を投げこんで仕舞へば義理が濟むと云ふのが奇妙なた界おやないか、阿呆らしいワイ、全体世間の俗人共は何故新年と云ふものが嬉しくも難しいのか、人間新らしいものが好きなからだらう、新年が新着なのだ、地球が新らしくなるのでもなけりや、人間が生れ替るわけでもない、イヤ却て古くなるのだ、タヾ人間の作つた暦と云ふ計算表を見てこれが年の暮だ、之れが新年だ元旦だなど、甚だ面白くもない、一陽來復とは口で云ふ計りで少しも來復はしない、事實は今から益々天候嶮惡になるのぢやないか、呆れた話だが、こんな詰らない習慣で全然征服されて居る俗人の心理を解剖して見ると、第一彼等が年中我利々々でほんの一日も氣の暢然とした時が無いが爲めではあるまいか、物慾の渦中に頭から沒入して仕舞ふて虚榮やら金錢やら手當り次第に慾張類張つて噛み合つて居るやら其一日の休戰日たる正月が嬉しくて溜らないのではあるまいか、昨日までは猛り狂ふて掠奪し合つて居た餓鬼が一夜明ければ去年のことは云ひこなしだと吐す、而しそれもホンの休戰日の一日で又直ぐにたつ始める、吾が輩は新年もれ正月もない有難さには何時も同じ事だ、俗人共の正月中の愉快さ加減と、暢悠は春夏秋冬引き切りなしに身邊に往來して居るのだ、愉快と快樂を貯藏して見ても仕方がないから其日其日の樂しみを矢張毎日味はひ行かねばならぬ、簞笥の中に仕舞ひ込むである樣臨臭い寄着を出してニッコリ微笑むなどは俗物の骨頂だ、吾が輩は始終盛裝して居るのだ常樂主義だ、ヤア面白い、愉快々々最う何時頃か、莫迦に腹の皮がたくれて來た樣だ、しかし寒い風の、ピユー〳〵とやつて來る處を腰を屈めて出て行くのと、斯う仰向けに寢そべつて居て空腹を忍ぶのと、果して何れが至難であるかこれは一つの面白い研究問題だが之れは此儘に現狀を維持して居て其解決を徐ろに事實上の經驗に托するのが最も安全だと思ふ、失張今暫くは寢て居るべしだ。

此問題の研究中に厄介なる邪魔物が來た、其れはエスと云ふ男だ、溫突の障子を少しあけて新年御目出度う、と陳腐極まる平凡な事を云ふ、吾が輩の所などに名刺の必要は更にないのだ、止むを得ないから目出度うどやると、刈り立ての頭を撫でながら何うも寒いですね、なぞ極まり切つた言を云つて居たが其儘〳〵去つた

外事一束

▲米國● 政界混沌を來し共和民主兩黨共に議會に混亂の狀態を呈しつゝあり

▲立法● 上の見地よりして四年大統領改選の不利を極度に明白にせる也と

▲土國● 首都の電報に據れば合同進歩黨側の系統にて土國新内閣再び成ると

▲英佛● 露三銀行代表者近々巴里に集合し波斯橫斷線計畫に就て協議す可しと

▲世凱● 戰爭を繼續せんか露又は列國との干渉を惹起せんとの風說紛育に行る

▲愛蘭● 統一黨は自治案通過の曉は假政府を開設する旨を宣言したりと云ふ

▲夕氏● 再び選擧場裡に立つ意なしとの風說は氏を憤起せしめ立候補に決す

▲新春● に際し露國外相獨逸宰相と懇勲なる祝電を交換し兩國益親密を加ふ

新刊紹介

△朝鮮農會報（第七卷一號） 論說に前田正名氏『歐州の文明を視て朝鮮の人士に望む』渡邊爲吉氏『朝鮮に於ける殖林事業の經營に就て』原島善之助氏の『平壤地方の畜牛に就て』道家林學士の『東拓と殖產將來』等を竟め此他朝鮮經營者の必讀の記事を以て充さる（一冊二十錢京城敦化門通朝鮮農會）

△蟹（第二卷第一號） 浪界にて有名なる桃中軒雲入道の機關紙軍に浪花節のみに限らず藝術一般に涉りての論評及び記事に富む附錄に雲入道の講演『赤垣旗癡德利の別れ』『南部坂雪の別れ』を收む（本號に限り一部二十六錢五厘福岡縣筑紫郡警固村明倫社）

△俳味（第三卷第一號） 卷頭式亭三馬の戲書たゝかれ始め寫眞版先づ珍とすべし沼波文學士の『私解芭蕉の發句』岡野知十氏の『江戸の春』梅澤和軒氏の『蒲生君平の俳句』瓊音氏の『芭蕉に妾ありき』等は本號の重要なる讀物見落すべからず（一冊郵稅共十三錢東京市本鄕區駒込西片町俳味社）

△青年之友（新年號） 青年諸子の良師友を以て任ずる本誌新年號には戸川殘花塚原澁柿園下岡忠治長谷川濤涯等名士の卓論の外本誌獨特なる創道界には笹森北天氏の『創道と一身修齊の道』野口正八郎氏の『護身術としての柔術』等の大論文を掲げ此外新春娛樂の讀物に富む（一冊郵稅共十一錢東京市本鄕區東片町新公論社）

△農業雜誌（千百二十號） 農界雜誌中の白眉たる程ありて所載記事悉く斯界名士の筆にならざるはなし（一冊五錢東京市麻布區本村町學農社）

△棋界新報（第五卷第一號） 本誌獨特の記事『布石通解』『定石通解』回を重ねて益々斯界を稗益し對局又斯道有益のものなる可し（東京市小石川區水道端町二丁目棋界新報社一冊十八錢）

梁川庄八　第七十二回

小金井蘆洲演

若王子の長者織元長左工門を暗殺をして逃失せた曲者は、是れ何者ぞと云ふと駒ヶ瀧の若者頭で今日の騒動の發頭人萬八と云ふ惡漢でございます、一体此萬八と云男が長左工門に對して何の宿意を持て彼樣な事を致しましたと云ふに、茲に當若王子村の名主に野村伴藏と云者があつて、此男が長左工門親子に遺恨を含んで居る、野村伴藏は若王子初五六ヶ村の束ねをして居るのであるが、誠に放蕩懶惰な男で、大分借財も嵩んで居りますので、長左工門から借りた金を期日に至ても返濟を致さぬ者ですから、吝嗇無情の長左工門は大に憤つて村寄合の時、野村伴藏を臆芥の如く罵り愧しめました、流石の伴藏も是には赤面して、寢ても覺めても口惜くて堪らず、親類中へ賴んで七歳借をして、早々長左工門に返濟したが、夫からと云者は伴藏と長左工門の仲が一層惡くなりました、搗て加へて伴藏が日頃懸想して居る、作右工門の娘お近を申受けたいと云て申込んだ所が、モウ長左工門伜勇吉と許嫁になつて居ると云趣で、二言と云はず斷はられた者ですから、遺恨が遺恨に重つて居ます處へ、長左工門の出金の一條から若い者が、激昂して居るのを幸ひに若者頭の萬八に賴んで

伴『親子の内何方か參詣に來たら叩倒して、我が日頃の憤を晴して吳れ、其代り貴樣に又相當の禮を遣る是れは甚だ輕少だが』と云つて當座の鼻藥を幾許りか遣りましたそこで氣早な萬八伴藏の賴みを受けて自分が先導で親父が御輿修復料の寄進に付かんのを口實に伜の勇吉を瀧壺に打込んで恐を晴さうとした所が、仙臺の賓藥賣が口を開て勇吉は無難に家に戻つたものですから、野村伴藏は奇怪の仕打さ中い若者頭の萬八に向つて、

伴『あれ程乃公が貴樣に賴み貴樣も亦乃公の賴みを能くまで承知して居ながら、其賴みを果さず勇吉を助けて遣るとは何事だ、貴樣は乃公に一杯喰はしたな不屆千萬な奴だ、さあ名主に對して貴樣が然云ふ僞言をする以上は、乃公も亦貴樣を此村方に置かぬから然う思へ、なあ貴樣が兇狀持と云ふことは疾うから知て居る、其事を申立つれば貴樣の首が飛んで了ふは必定で、人我に辛ければ我亦人に辛しだ覺悟をして居ろ』と頻に威嚇文句を並立てましたそこで萬八此村方を追立てられては差當り何處と云て落付く處がない、脊に腹は代へられぬに依て

萬『宜しうございます今夜手前が彼の長左工門を殺して、お前さんの腹癒せをしますから、何うぞ夫迄私に吃言を云ふのを暫く待つて下さゑ』伴『吃度か……』萬『大丈夫で男が齒から外に出した以上は、違りで損ねるはござんせんや、細工は流々仕上を見て下さい』伴『諸親子の中一人殺して吳れゝば、乃公も遺恨が晴れるから、貴樣に目を掛けてやる、程經れば五ヶ年なり十ヶ年なり、無年貢で作らせて行く〳〵は組頭位に取立てやるから、乾度乃公の鬱憤を晴らしてくれろ』と云ふ、伴藏の賴みがあるのだし、長左工門に對しては遺恨も聊かはあるのだし、そこで萬八も前にも述べた通り、脊に腹は代へられないから、伴藏の賴みに自分も激して、遂に長左工門を暗殺したのでございますが、誰一人知る者とては有りません、扨夜が明けると祭禮の事ですから、終夜村遊びを致して居りました、長左工門方の雇人機織の織工共が、一先づ主人方に歸り朝飯でも濟してから、又遊びに行こうと心得で、三人四人と打揃つて歸つて來ると、何時も開いて居る刻限だが、今朝に限つて門が締つて居る、ハテ變だと背戸口から廻つて這入る者もある、塀を乘越して家へ這入て見る者もある、所が何時でも早起の入ケ間敷屋の主人が、まだ起きない樣子だから、何うも不思議だと云ので、其中の重なる者が主人の部屋へ行て見ると、斯は如何に蒲團の上から周圍の疊は一面に血汐に浸されて、韓紅の如く何者の爲に害されたるや、最ど無慘なる最期を遂げて居ります、番頭は氣疏敷い聲を出して

番『ヤァー大變だ〳〵大旦那樣がこ、殺された〳〵』と泣叫ぶ聲を聞付けて一同も慌たゞしく集まつて來た、面々アッと云たばかりに驚いて、暫時は物をも云はず呆然と佇立んで居りましたが、何しろ小旦那は何處へ行きなすつたか、居所を訪ねて御報せ申そうと諸方心當りを勇吉を探がしに出ました



東京電報

▲上田中將後備　朝鮮駐劄軍司令官陸軍中將上田有澤氏は來る二月十四日を以て大將に陞任後備役仰付らるべし

▲軍司令官後任　上田駐劄軍司令官の後任は安東山根兩中將の中なるべしと

▲樞密院副議長　九日午前十時宮中に於て左の如く親任式行はせられたり伯爵芳川顯正氏は樞密院副議長に神奈川縣知事男爵周布公布氏は樞密院顧問官に任ぜられたり

北京特電

▲列國鐵道守備區　今回列國にて嚴重守備せんとする北清鐵道の要部は京津鐵道（北京天津間）津海鐵道（天津上海間）秦皇島（湯河秦皇島間）湯營（山海關營口間）唐山（北京唐山間）蘆溝橋（豊臺蘆溝橋間）等にして右配備にして實行されむか革命軍が屢々試みんとしたる秦皇島を北伐上陸地點となすことは全く不可能に歸することとなるべし

▲親王連の意氣込　媾和破裂と共に袁世凱は飽迄武力に據るの外なしと叫び姜桂題は一死以て國恩に報せんと決心し自から先鋒となり南京を衝かんとの勇氣を示したるより親王等之に勢を得て軍資金の醵出を吝まざるに至れり

▲河南省の危急　河南の革命軍は袁世凱の彈壓を肯せず北上せんとする形勢にて祭巡撫より至急應援隊を増派すべき旨電報ありたり河南又復危窮に瀕せり

▲端方最後の光景　端方に隨行せる部下三名四川より歸京せり其談に依れば端方端錦の兩名は十二月二十日革命軍の暴動起れるより身を以て逃れ重慶に至らんとしたる途中に於て逮捕せられ兄弟は同時に殺されたりと

上海特電

▲革軍と國民大會　八日　革命軍は上海、武昌、廣東の各地に國民大會を開き戰爭繼續其他の件を議決せり

▲革艦北に向ふ　革軍の北伐艦隊三隻は十二日渤海に向ふべし而して同方面を封鎖し欒州第二十鎭即ち叛軍に彈藥の供給をなすべし

▲避難居留民　沙市に避難せる本邦人四十名外國人約百餘名は六日重慶を發し十七日武昌に到着すべしといふ

▲革軍と武裝力　革命軍は漸次軍隊の員數を增しつゝあり然れど武器の購入之に伴はざるを以て北伐の大行動には少なからざる武裝力を缺けるものゝ如し

▲孫を嫌ふ一派　國民大會出席者中には孫逸仙の一派に嫌焉たるものあり

雜報

●普通學校長に訓示　寺内總督には九日午前九時別報普通學校長會議に出席の爲め來京中の小松臨廊浦公立普通學校長外四十七名を總督府會議室に引見し左の如き訓示を與へたり

曩に朝鮮教育令發布され教育の大方針は既に之れによりて定りたる次第なるが同令は勿論教育勅語の精神に基きて制定したるものにして諸子は此の點に留意すると同時に諸子の多くは内地に於て衝に當りしものなれば往々にして内地に於けるそのものと同一視して急速に一般鮮人の教育に改善を加へんとし反つて害多くして益尠きの結果に至らしむるの例少なからずされば民情風俗の進歩に伴ひ漸次新教育を施すべきは當然の事にして抑も教育は土地と民情とを參酌して最も着實に空理空論を避け實際社會に適應したるものを施すに在り故に徒らに古今世界に名聲を博せる英勇大政治家等を崇敬し學徒をして空想を抱かしむるが如きは其の職に在るもの丶大に避くべきものとし要は教育の本義は民をして其の分に安せしむるに適切なる所謂穩健着實なる人物を養成するに足るべき教育を授くるに尤も注意するも尚ほ詳細は道長官より訓示あるべき筈なり云々

●鐵道運賃改正計畫　朝鮮鐵道の賃金が高價なる事は一般の定評にして當局者も之を是認し早晩該賃率の改正あるべきことは何人も期待せしことなるが元來併合前に於ける朝鮮の狀態と今日は時勢を異にせるより鐵道局にても愈々輿論に鑑み之れが改正を實施することに決定しをれる由にて從來は長距離遞減法を採用し長途の旅行者にばかり便宜を與へをりしも改正後は單に一哩幾何と賃金を定めて哩數の遠近によらざるの方針なりとか故に短距離の旅行者には非常の便利を與ふるに至るべしと

●東拓第二回移民附配　既報東拓會社第二回移民は總數六百五十戸の内六十戸は先方より取消を申込み五十戸は未だ何等の返答なきに依り決定する能はず結局目下移住の確定せるは四百四十一戸二千十人にして内團体二十、二百五十戸、單獨百九十一戸なり而して右四百四十一戸の移住地は水原出張所管内四三戸鐵島同二二戸開城同七戸沙里院同九戸江景同六九戸榮山浦同四六戸馬山同一四三戸大邱出張所管内七五戸金泉出張所管内一三戸なりといふ

●鐵道局と學兒童　朝鮮鐵道管理局に於ては沿線小學校に[illegible]けなき驛より[illegible]し就學の便宜[illegible]り無賃乘車券[illegible]本學期中に限り[illegible]附すと云ふ

●手形交換種別　去月中當地に於ける手形交換所の成績は既報せし所なるが今其細別を示せば左の如し

證書種類	枚數	金額
小切手	[illegible]	[illegible]
送金爲替手形	[illegible]	[illegible]
約束手形	[illegible]	[illegible]
仕拂命令	[illegible]	[illegible]
出給命令	[illegible]	[illegible]
郵便爲替證書	[illegible]	[illegible]
公債債券同利札	[illegible]	[illegible]
雜證	[illegible]	[illegible]
合計	[illegible]	[illegible]

而して各銀行の持出手形枚數及び金額は左の如し

銀行名	手形枚數	持出手形
朝鮮銀行	[illegible]	[illegible]
第一銀行支店	[illegible]	[illegible]
京城銀行支店	[illegible]	[illegible]
百三十銀行支店	[illegible]	[illegible]
京城銀行	[illegible]	[illegible]
十八銀行支店	[illegible]	[illegible]
漢湖農工銀行	[illegible]	[illegible]
朝鮮商業銀行	[illegible]	[illegible]
韓一銀行	[illegible]	[illegible]
漢城銀行	[illegible]	[illegible]
京城郵便局	[illegible]	[illegible]
合計	[illegible]	[illegible]

●當局者の辯疏　京城取引所不[illegible]の提出が舊臘[illegible]可指令書の交[illegible]を以て世人は[illegible]く從つて當局[illegible]らんも右は決[illegible]ては昨年九月[illegible]き同時に之れ[illegible]種々調査研究[illegible]を召喚して一[illegible]が設立の到底[illegible]の出願の書類[illegible]も拘はらず途に[illegible]日を以て出願[illegible]の指令を與へ[illegible]當局にあつては[illegible]査研究を了し[illegible]不認可の指令[illegible]局者の一人は[illegible]

●昨年中の水道事務　京城水道[illegible]は昨年四月大韓[illegible]務部に引繼ぎた[illegible]百一個なりしに[illegible]百五十六個に及び六百五十五個の増加[illegible]して水道に配水管を延長し[illegible]地其他京城市内に一萬[illegible]即ち千八百十間余にして[illegible]改築の爲既設配水管千八[illegible]替を行ふ事とし十一月二[illegible]二月二十五日竣功せり尚[illegible]部の水道敷設も既に三分[illegible]り然して收入成績も甚だ[illegible]算額十三萬三千六百五十[illegible]料六萬五千七百九十三圓[illegible]二圓給水工費二萬六千四[illegible]五十八圓合計九萬三千三[illegible]收入にて目下の成績にて[illegible]に達すべしと

●各銀行營業成績（其四）
▽第百三十銀行京城支店△
明治四十四年度下半期……佐野支店長の談……四十四年度下半期に於ける第百卅銀行營業成績は總預高一千〇六[illegible]九十八圓總支拂高九百六[illegible]百六十四圓即ち現在預高[illegible]三百三十四圓にして又た[illegible]百二十二萬七千六百七十[illegible]總高四百七十萬七千三百[illegible]現在貸出高百五十二萬〇[illegible]て之れを前年同期に比す[illegible]厘六毛の增加を示す尚ほ[illegible]一割四分一厘五毛貸出金[illegible]ける總現金扱高は受入[illegible]萬二千八百八十六圓支拂[illegible]一萬千九百九十六圓爲替[illegible]八萬九千六百七十一圓彼[illegible]萬千九百五十四圓なるが[illegible]一萬四千四百圓にして前[illegible]金利低落の爲め約三百圓[illegible]居るも該利益金たるや同[illegible]本店より借入金の利子を[illegible]の即ち所謂雜益にして同[illegible]は配當濟の性質を帶ぶ[illegible]期間の營業成績は之れ[illegible]四年前半期及び前年度[illegible]て良好なるものなり云々

●定例長官會議　九日午前十時[illegible]議室に於て定例長官會議[illegible]山縣政務總監、倉富、[illegible]美、池田等の各長官鈴[illegible]代理等出席し十一時三[illegible]

●採取田と改良種　東拓會社の[illegible]秋收穫したる米改良種[illegible]更に小作人に配付すべ[illegible]馬山六十七石金堤四十[illegible]石大邱百二十石水原三[illegible]四石砂院里七十石合計[illegible]るが之れが七個所の採[illegible]歩數は約千六百町歩な[illegible]右八百五十九石の種物が平順に生育して結實するものと假定して本秋如何程の收穫あるかといふに一反歩平均三石として四萬八千石の收獲高となる譯なるが要するに鮮人の農民は在來種より改良種を歡迎し居るとのことなり

●森林保護吏の設置　朝鮮森林の保護に關しては京城附近にては前年來山監を設け各森林を巡視せしめつゝありしが明年度より更に之を全道有名なる森林所在地に保護吏を新設し山林の保護及殖林の指導等に從事せしむへしと云ふ

●商議役員會の議事　既報京城日本人商業會議所役員會は九日午後五時より同所樓上に於て開會米穀移入税撤廢運動方法、東上委員選定の件及び黄金町道路擴張問題等につき協議せり

●總督府醫院患者扱數　總督府醫院に於ける十月中の患者取扱數三千二百五十三人内施療患者三十八人一日平均八百十五人餘に當ると云ふ

●朝鮮と落花生　近年朝鮮に於て落花生の栽培をなすもの漸次發達の趨勢を示し就中慶尙南北道中靈山、昌寧、淸道、密陽方面に於ては將來該地方の特產たらんとするの傾向を呈し靈山の如きに至りては作付反別既に百余町歩に及べりと云ふ蓋し本品の栽培は朝鮮農事上の開發と共に益々盛なるべきは推測するに難からざるなり

●鮮人間島移住者　北鮮の朝鮮人が間島へ移住の趨勢は屢々報導したるが最近間島總領事館の報告によれば去る明治四十二年に於ては戸數一萬五千三百八十五戸人口七萬八千百五十八人四十三年は一萬八千五百二十六戸人口九萬八千百三十七人四十四年は戸數二萬二千五百五十五戸人口十一萬八千四人にして斯の如く多數の移住を見しは經濟上の關係に基くものなりと云ふ

●仁川の製鹽と販路　仁川の製鹽業は一兩年以來著しく發達し今や製鹽業の數十四を以て算ふるにいたれり而して之れが製鹽は主として再製鹽と稱するものにして廣東灣及び朱安に於ける天日製鹽とは其の趣を異にせり其の方法は一度製鹽せられたる粗製鹽を原料とし之れに加工して精製鹽となすものなるが之れが原料は專ら淸國山東省及關東州產のものにして多くは支那戎克によりて積載輸入され支那問屋の手を經て販賣さるゝを常とす而して叙上十四個所の製鹽所に於ける一ケ年の製鹽高は約三千四百萬斤にして之れを一日平均にすれば十萬斤となれるが此の外原料を其の儘粉粹して粉碎鹽を製造するものあるも這は春期一定時期の製造なるを以て其斤量は確實に知るを得じ之れが販路は慶山、大邱以北の京釜沿線を主要地とし殊に金泉、倭館及太田地方に最も多量の需用あるが慶山以南は釜山を根據とせる日本鹽並に臺灣鹽の需用夥しく加へて同地方は地勢上運賃の關係より昨今のところにては競爭の餘地なきもの丶如し次に京義沿線に於ける販路は從來極めて微々にて僅かに開城以南の沿線に供給しつゝあるの狀勢に過ぎざりしが昨今にいたりては鎭南浦を中心として支那鹽の勢力範圍を侵し又最近に於ては臨津江沿岸地方に需用を喚起し尙北進して京元沿線及び漢江流域に及ぶの傾向を示しつゝあり尙ほ昨夏或る製鹽所が三井物產の手を經て元山方面に販路の開拓を試みたるに意外の好成績を收めたりとか次に昨年に於ける價格は製鹽所と時期の關係に依りて多少の相違あるが最高の時は九十五錢より一圓二十錢最低の時は同じく九十五錢より一圓十五錢なりといふ而して更に仁川に於ける支那鹽の輸入高は一ケ年約三千四百四十七萬斤にして全朝鮮輸入高約一億萬斤に對し三割二分に當り居るが昨年は滿洲ペスト流行のため稍減じたりといふ尙昨今十四個所の製鹽所に於ける竈數は約六十個にして一日に於て最も多く製鹽せるは仁川製鹽所の四萬斤なりと

●各道慈惠醫院患者扱數　各道に於ける慈惠醫院の十月中に取扱ひたる患者數總計一萬九千四百四十四人内施療患者一萬三千七百五十三人一日平均四千四百八十人餘なりといふ

●教員養成所始業式　京城高等普通學校に於ける各道長官の推薦したる臨時教員養成所講習生八十餘名の始業式は十日午前九時より同校々堂に於て擧行する由

●京畿道學校長會議　京畿道各官公私立普通學校長會議は八日より京畿道廳に於て開會八日は新教育令に關し道長官の訓示あり九日午前石田視學官の教則に付て講話あり昨日終了したり

●鮮海の捕鯨成績　江原道長箭浦を中心とし海上六十海里に亘り漁區を有しをる東洋捕鯨會社の昨年中に於ける成績は百〇一頭十八萬六千餘圓にして捕鯨は何れも大阪博多下の關三ケ所へ販出せりといふ

●蠶業獎勵と桑苗　京畿道各郡賜授產場に於ては昨夏より桑苗養生に着手し目下已に百余萬本を栽培し居れるが本春桑樹植付時期に至れば之を各授產場傳習修了者に配付し修了者約三百五十人に對し一人宛二千本内外の割合を以て少くとも一二反歩の桑園を拓かしめ以て養蠶獎勵に充つる筈なりと

●木炭製造傳習成績　江原道にては授產事業として此程より木炭製造の傳習を開始し其成績頗る良好にして從來江原道產の木炭は其料質脆弱にして產地より春川地方迄輸送するにすら其量目三分の一に減し到底市場に於て好評を受る能はざりしに今回の傳習法によれば百貫目の薪材より十七貫目の木炭を得製品も内地品と敢て異ならざる故京城方面にも販出し例の根炭と競爭し得べしといふ

●昌德宮の午餐會　李王殿下には九日昌德宮仁政殿に於て寺内總督山縣政務總監以下各部長官、中山、山縣兩武官、秘書官及上田軍司令官松永師團長、明石警務總長等を招待し午餐會を開かれたり

●菓子商組合發會式　同組合發會式は既報の如く八日午後七時より掬翠樓に於て擧式せられたり江川文吉氏の挨拶あり次で來賓今村署長の訓示的演說古城民長の書譴的諷刺演說深水商議副會頭の希望挨拶に次で會員の祝辭朗讀等ありて開宴歡を盡して散會せしは十一時頃なりき

●古城民長の招宴　古城民長は九日午後六時より各新聞通信社長を花月樓に招待し新年宴會を開く由

●宇佐川總裁歸京期　舊臘二十九日病氣靜養の爲め東萊溫泉に避寒したる宇佐川東拓總裁は快方に赴きたるを以て來る十八九日頃歸京すべしといふ

●秋山參事官歸任期　秋山參事官は二月初旬歸任すべく同月下旬更に歐米視察の途に上る豫定なりと

●宮尾拓殖局部長の出發　滯京中なりし宮尾拓殖局部長は八日夜南大門驛發歸任す

●青木書記官の歸任　東上中なりし青木山林課書記官は七日夜歸任せり

●岩崎仁川民長歸仁　岩崎仁川民長は別府療養中なりしが歸途釜山大邱等を視察し九日歸仁すべしと

●保安課員の新年宴會　警務總監部保安課員一同は十日午後五時より井門本店に於て新年宴會を開くと云ふ

●咸北の農產畜牛品評會　咸鏡北道管内淸津府鏡城郡聯合第一回農產畜牛品評會は農產物出品點數六百八十九點畜牛出陳七十六頭にして農產物は成績佳良なりしも畜牛は同道特有產物にも拘はらず他地方に比し著しく劣れるものあるを認めしといふ

●城津管内の道路修築　城津警察署にては關係官公吏と協議の上面洞住民の賦役を以て新坪里外二ケ所の道路延長五百二十間を改修し並に洪川橋上流外一ケ所に惡水除の爲め延長六十七間の堤防を築きたるが工事は四十三日に亘り賦役千四百四十八人牛車五百五十四臺を使用せりと

●部面長の會議　京城府廳にては八日午前十時より各部面長の協議會を開き午後四時散會せり

▲京城手形交換高▼

一月	會	高	枚數
九日		二八〇、五二三、一〇	六三八

▲公人私人
▲中橋德五郎（大商社長）大坂行
▲宮尾舜治（拓殖部長）東京行
▲鈴木德太郎（辯護士）釜山行

▲治外法權▼　本紙が過般總督府の行政整理說を公にしたら、ナニが偖判らず屋の誰彼、特に御用紙の如きはムキになつて整理說は無根だなどゝて辯解に勉めたものだ▲トコロが事實は事實だからドーも仕方がない、既に總督の口から行政冗費の向け先まで聞かされた以上、如何な頑迷な、ボンヤリな御用紙でも朝鮮總督府だけは整理の圈外にあるのだなどと、フザケた事を云得ぬ樣になつたらうと思ふ▲朝鮮銀行の四十四年下半期純益金が十三萬圓と公表されたが、偖アレ程の團体をしてアレ程の紙幣を發行して、アレ程に他の銀行をイヂメて、ソレで政府株以外他の株式へ六朱の配當をするだけ、ヤツト儲け出し得たとは重役共の働きドーモドーモと恐入る許りだ▲ソレは夫として茲に一大疑問は、朝鮮銀行は額面で買入た例の恩賜公債をば、資產表中に幾らに見積つて居るかだ、特別五分利附帝國公債でさへ、九十四圓を稱して居る今日、五分利附記名の恩賜公債をば、マサカに額面で資產表中へ附込んでは居まいが、若しあつたら卅六萬圓の穴だ▲鮮銀の重役諸君、貴行前下半期の純益金十三萬圓とは前記三十六萬圓の欠損を差引た上の算盤かドーカ、世間に盲ばかしは居ない、卿等は總會前に於て先づ此事を明にすべしだ▲中華民國の大統領孫逸仙と共に南京城へ乘込んだ末永節から年賀のハガキが記者の許へ屆いた、曰く、旭影初めて老松の梢をり立ち田鶴鳴き渡る、彼れや我と過去十數年間死生を共にせしもの、今や民國政府の世話役となる、喜ぶもの獨り記者のみに非ず▲年賀と云へば元内部に居た岩井敬太郎其外から静岡市發の年賀ハガキが記者の許へ屆いた、察するところアノ時免官になつた内部の連中は何れも知事になつた松井に引取られて居るものと見ゆるが夫にしても松井は感心にも部下に親切な男だ。

鴨綠江の橋と氷（四）

天眞生

重疊起伏せる山々の頂谷間には雪薄白く、動き殘されし畓の水は氷して皓然として玉盤をなす、雞井驛に着す、木炭及び石灰石の如きものを山積しあり木綿紋付に袴つけたる少女と男の兒と立ち列びて何事をか語らひ交しつゝ打ち笑むなり、雲低う垂れて風寒く雪を呼ぶらしき風の音車室内の暖きに居ても猶且つ耳に冷たき心地するを彼の子等はへとも思はず立ちてあるなり、強健員に國家の慶事たり、此あたり間々綠濡るが如き松林を見るは嬉しけれど林中所々を拓きて大なる墳塋どしたるは嬉しからず、墳塋の構造今日の如くならば朝鮮の山野は悉く累々たる墳墓と化せんなり關心す可らずや、金郊驛邊にて雪降り出づ小學兒童の群を成すを見る、禮成江を過ぎて汗浦に近く太白山城趾を仰ぐ絶好景なり雪益々盛にして加も地に白きを爲さず、南川物閒の寒驛を過ぎて新幕驛に入る、附近に產する五穀薪炭等の集散地として知られたる大驛なり、此時立ちて『何度ですかい』と云ひ作ら寒暖計に立寄る『六十八度、チト熱ちいですなア』と嘆息しつゝ僕の傍に座を占めて『牧山さんの記念號は立派に出來ましたが、鈴木(穆)さんの記事は少し出來過ぎましたなア、奧さんに同情しますよ』と云ふ『ハア』と云つたが僕は新橋氏の言葉の意味の解釋に迷つた『工藤(武城)さんも迷惑しつらうと思ひますよ、ア、云ふ記事を見ると嚀や娘を托するに不安心に感じますよ、私は御覽の通りの不檢束人間だが嚀や娘は神聖なものにして置きたいからですよ、實際醫者は左樣言ふ風に不安心なものでしようか』と酷く不安らしい『肉の接觸と云ふ事が多いから何とも斷言出來ませんでしよう、特に婦人科に於ては衆目を避けて診療する場合が多いから、と云ふ噂を立てらるゝ要素は既に此所にもある、本間醫學士の如き近くは鳥淸の女將と何とか云ふ噂を立てられて居ましたよ』と言つた僕の顏を見成つた新橋さんは『左樣ですかなア』と嘆息して御座る、決して無理のない嘆息である田中氏耳語して曰く『總督閣下には例年の通り五日の新年宴會後新聞社長記者通信員諸君と共に新年の祝杯を擧げらるゝ筈です、タシカ六日だらう』と答へる、『藝妓は』と尋ねる『夫は無い』と判然さ答へる、瀛車は今し瑞興を發して瑞興川を横斷せるなり風光佳絶の夏時遊覽に好適地たるべしと見つゝ氷結せる深淵碧潭を縫ふて興水驛に入る、地方農產物の集散地たり、淸溪以北沃野洋々たり馬洞を經て沙里院に入る著名の農產地の事とて毎月五、十に市場を開くに一市の賣買一萬圓餘に上ると、沈村、黃州を經て黑橋驛に入る、驛は釜山を距る四百二十哩、南大門を距る百四十九哩、新義州を距る百六十三哩の地點に在り、前途は遼遠、鴨綠江の橋よりも少々此方が長い如なり

小蝶の百廿歳説

▽亭主の行衛不明

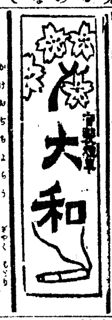
大坂市南區農屋町平民戸主有山キクと云つては當人の他は民團役所の民籍係りと警察の營業係りが臺帳調べて知る位であるが若し夫れ京城券番花家席の小蝶と云つたらウム彼の婆藝妓がと點頭かるゝ御親類筋が多い此の妓婆藝妓〱と云ふが一寸逃皮の剝けて居る上に若作りとて二十八九さしか見へぬが戸籍を洗つて見ると明治八年七月生れとあるから明て三十八才で亥の年生れだが當人一向澄したもので大隈の御前は人間は百二十歳迄生きるものだと仰云つてです私は確く信じてますシチ見ますと本年三十八でも先が八十二年あるから安心なものでさア、と安心してる丈あつて凄い腕がある見ねマダ漸と三十八に成つた斗りの婆藝妓であり乍ら十二月中の席順二番となつて居る多少の仔細なかるべからずと物好きの鬼耳子探つて見ればある〱大にある此の妓京城に來る迄は大坂南新地の富田屋で左褄取つた名高き手取り妓なりしも八八が飯よりも何よりも好きで大坂を逃げ出す迄は一千餘圓の借金を背負ふて居たと云ふ然し抱主も小蝶の爲めには何萬圓と儲かつたので棒を引いて呉れたから朝鮮で辣腕を揮ふて見る可く昨年春渡鮮し第一番に南山町の松葉亭に抱へて呉れと申込んだが都合あつて花家席に抱へられた以來此妓の辣腕に掛つたのが明治町の疊屋の主人公竹中であつた早速借金も拂つて自前藝妓となり七八月頃には竹中の家に入込んで女將藝妓となり傍らには髙田家に陣を構へ龍山方面の請負師或は軍人將校連中にも贔負になつて大に稼いで居たが竹中君は小蝶の爲めに昨歲末には夜逃げするに至つた未だ何處へ隱れて居るか不明ぬと小蝶は此の頃落膽して稼ぐ氣もせぬと云つて居るとは藝妓連の評判

子歳藝妓の氣焔

會員 井門鶴吉、淸水席權助 玉家伊達子、開進亭梨 淸華亭金五郎、さん子

玉家席 伊達子

私氣焔なんか吐かうものならば京の彼の大眼玉に睨み附けられるワ、恐がる風かよつて仰云るけどジッシの勁ですもの、此頃搦翠で聰んで呉れるかと仰云るの、否ね、チャ不義理をして出たんだらうはお情ないワ貴許、不義理をしたはお情けない、左樣では無いのですよ斯う見れたボロ藝妓ですけどもねホントウに左樣ぢやないのよ、お父さんにでもお母さんにでも聞いて試て下さい判然しますから、ハア左樣ですつてねお搦翠の此頃の繁昌たら無いんですつてねお芽出度いワ、結構よドシ〱お茶屋さんが繁昌すると私の如なものでも其お蔭を頂けるものね、子歳の女は情が廣いつて、情が廣いつての何う云ふ理由なの、エ、誰でも包むつて、マア憎らしい憚乍ら一人も無いとは申しませんが全く一人も無いと同然只々内地で一遍落籍されて居た高野さんの事は今でもチョイ〱思ひ出して、アー御免なさい眞實だから、アッハツハツハツ、時に景氣ッたら酷いうムんしたね、春になつたら民間有志の方が一つ總督閣下を花月か搦翠へ御招待なさつて京城藝妓總出の手踊でも出したら好いんでしようがねえ、お行きなさいよ、ねね行きなさいよ、一つ景氣好く子歳ですよ、閣下は私等と相贔だから一つお勸めしたいけど、併叱られると恐いから止ときましようよ



驅落女郎の逆戻

▽水原邑内鮮人宿にて

新町遊廓淸月樓紫女郎が元京城第一憲兵分隊付上等兵西谷榮衛門と去る十二月三十一日午後三時頃驅落ちして行衛不明なりし一埒は四日付の本紙に既報の如くなるが憲兵隊にて搜索手配中の處八日午前十時頃水原邑內に潛伏中を水原憲兵分隊に捕はれ八日午後十二時過ぎ紫は淸月樓に引渡されたるが西谷は當時既に免職に成り居しなりと

由良之助殿へ

▽せんべいくらいあるよ

元祿四年極月中の四日の夜萬字巴と降る雪中を本所松坂町師直の邸に打ち入つて首尾克く故主の仇を報じたる四十七士が統領大星由良之助殿へとあれば一力が裏木戸に文の使ひの大星力彌がロシャンと打ち鳴らすと來る所だが名は同じでも夫と是とは雪と炭程違ふ新町大和新地元祿亭の由良之助事本名おたけにお馴染の金子生から送つたを心無しの誰やらが掃き捨てたのを九太夫ならぬ探訪子が拾ひ歸つて報告

金子生

たけごの家がかわつたのはほんこうだ、きみの家から、三丁か四丁のところだ、ついそがあつたらあそびにおいで、せんべいぐらいあるよ。これからおゆにゆきかへつてねる

初音町二丁目二十七番戸

三桝樓主の引致

▽鬼婆の評判ある

岐阜縣岐阜市千歳町當時京城新町大和新地三桝樓主林ミヤ(四三)が鬼婆の仇名ありて平素の行動に付て廓內組合一同彼れを嫌ひつゝあり又彼れが抱娼妓を虐待しつゝある風評ありて當局者も大に注意しありしが某刑事より彼れに或る犯罪ある事を探知され犯罪搜查復命ありたれば何れ引致さる可し倘ほ本社は鬼婆林ミヤが內地に於ける行動渡鮮後に於ける体度及醜行等に付探知し居れば其筋の搜查終了の上報導す可し

上には上がある

▽谷川三藏を詐欺す

大分縣北海部郡大在村當時京城大和町一丁目大工職姬野忠一郎(三八)は去る四十二年七月本町九丁目二十五番戸の家屋建築工事を大和町一丁目谷川三藏より受負ひ工事中に三藏が詐欺取財犯にて其筋に拘禁せられしより工事落成せざる以前に落成したりと稱し三藏の實兄圖吉より工事金の全部を受取り金百七十圓に相當する工事を落成せざりし爲め三藏出獄後詐欺取財として南部署に告訴され目下取調中

●吝な無一文男 福岡縣人當時大和町二丁目十六番戸松本義松(三□)は泥醉して九日午前二時頃露國人料理店メツトー方に至りビール三本を飮み代金一圓五十錢は高いと爭論し新町派出所に持出し取調の結果懷中無一文にて本署に引致されんとする際友人大場正市なる者來合せ代辨して事濟み

●龍山の十日會 龍山在住の官民有志は謙て十日會なるものを組織し官民間の意志を疏通し合せて相互の親睦を計らんが爲毎月一回會合せしが本年は第一回に新年宴會を兼ね十日午後六時より舊龍山元町八景園に於て開催する由なり會費は金壹圓五十錢尙同會は龍山麻浦方面に居住の者は何時にても隨時入會差支なしとの事なり

●賭博現場を御用 福岡縣人當時若草町一丁目奧田兼次郎(四七)同縣人當時櫻井町橫山捨吉(三七)香川縣人當時本町八丁目金崎磯三郎(三七)長崎縣人當時本町八丁目谷川和太郎(三七)の四名は外二名と共に八日午後五時半頃金崎方にて賭博の現場を檢擧され目下取調中

●淸人日人小學校に入校 原籍廣東州廣州府番禺縣當時仁川新町二丁目三十六番地淸國人關鴻梁長男關耀棨(十二)は今回日本人仁川尋常小學校へ入學せり

●竊盜 六日午後二時西大門鐵道官舍今西常太郎留守宅表戸の鍵を捻ぢ切り忍び入り一圓紙幣二枚及び銀側懷中時計鎖付一個價格六圓五十錢を竊み去る

●姬野醫院の移轉 當地櫻井町姬野醫院にては大和町一丁目元小川醫院を讓受同所に移轉し一般診察に從事すと

花柳界だより

▲明けて芽出度子歳の正月の當地花柳界の景氣は昨年に比して素晴らしく好景氣にて中券京城券を通じて藝妓百人程の不足を感じつゝありとは結構と申して置いて扨▲新江戸家の萬龍曰く『次回の江戸ッ兒會の幹事は搦翠の江戸奴さんと花家のお濱さんでしたよ、今次には入來しやいよ五圓持つて』と、跡が惡い▲搦翠の江戸奴、流石に俐巧なものフの字の事は秘密ですよと斷らない『江戸ッ兒會は二十一日です、も少し澤山でないと女連の方が多くつて面白くないワ』▲京城券菊家の菊枝は年毎に美しく成り行く▲花月の桃太郎アノ腕があり乍ら席順が上らぬ、ハ、ア熱斗りではねゝ▲同家の光菊は此頃劍舞が巧手になつたから見に來て下さいと申して居るが此位器用な妓も鮮なからう、角力はとる劍舞は踊る此で鯱鉾立と木登りを稽古をすれば申分なし▲同家の一奴は吉原の老爺斗りぢや張合が無いと本町九丁目に好を拵れた如だから香檢事の手にて豫審中▲搦翠のお染は萬○さんを大切に〱▲井門の政子は十二月の席順爭ひに七十本際して出したと素破れ大に立腹して曰く『實はお正月の紋日花に或方から百二十本貰つた内から出したので決して隱して居たのではありません』とイヤ怒つてること〱▲淸華亭の丸子永らく病床にありしが全快したので元日から戰鬪開始▲玉家の靜江は金光樣に日參して『ドーゾ彼の人と添はして下さいまし』(鄭雀)

演藝だより

▲壽座 若島屋一座は連夜大入りの御禮として十日より一等八十錢二等六十錢三等五十錢四等三十錢に値下げする由藝題は『四國騷動猫化犬仇討』▲歌舞伎座 改成義團本日の藝題は『松風村雨』切『京人形』なり▲浪花館 三遊亭圓若一行にて大人氣▲御成座 本日の藝題は『野村眞夫』

平民文庫

▲菓子屋の組合が出來た菓子の値が騰るか騰らぬまでも小さく成るだらうと一般人士の心配らしい斗りか小賣商人の仲間には元値が騰るだらうの心配があるらしいが組合役員たるものは總ての此心配を取除く樣にしたいものだ(風聞子)▲あけましておめでたう、寄き初めにこんなものが出來ました『添ふて子歳の辻占も嬉しい主の初便り鼠鳴きして待つ今宵嬉しい首尾ぢやないかいな』(箒之助)▲地方裁判所の淺○さん二日の夕方の彼の醜体は云々の投書は新年だけに執行猶豫(係)▲去歳末廿七日貴新聞平民文庫に浦尾旅館内にて女中と御客と云々と御記載有りしが小生は京仁間の旅館荒しとも言はれる位宿泊する事が多ひが浦尾旅館は旅館の內でも斯の如き事は最も取締り矢ヶ間敷小生が之を不實なる事を證明出來る故取消しを乞ふ(公平な客人)▲殆んど命令的だナ呵々(係)

廣告

京城居留民團告示第一號
京城居留民團立南大門尋常高等小學校ヲ京城居留民團立南大門尋常小學校ニ京城居留民團立日出尋常高等小學校ヲ京城居留民團立日出尋常小學校ニ變更ノ件客年十二月廿八日其ノ筋ノ認可ヲ得タリ
明治四十五年一月四日
京城居留民團民長 古城菅堂

京城居留民團告示第二號
京城居留民團立龍山尋常高等小學校分敎場ハ客年十二月二十二日限リ廢止ス
明治四十五年一月八日
京城居留民團民長 古城菅堂

一 星州政府倉庫新築外一廳工事
右競爭入札ニ付キ詳細ハ一月十日以後ノ朝鮮總督府官報又ハ本府若クハ慶尙北道廳、釜山府廳ノ掲示ヲ見ルヘシ
朝鮮總督府

公告

第一號
一 金卅圓廿五錢也 行旅病人救護費へ
右寄附
客年十二月晦日興行ノ京城高等演藝館ニ於ケル收入ノ全部ヲ以テ當民團行旅病人救護費ニ充ル爲同館主金原金◎殿ヨリ寄附相成候條此段公告ス
明治四十五年一月八日
京城居留民團役所

建物拂下公告

一 京城東部蓮池洞所在
建物 十四間
右賣却ス買受希望ノ者ハ本月十日以後ノ朝鮮總督府官報又ハ會計局營繕課ノ掲示ヲ看ルヘシ
明治四十五年一月十日
朝鮮總督府

